

一般社団法人日本解剖学会 2026(令和8)年度第2回常務理事会議事録

日 時：2026(令和8)年3月23日(月) 12:00～13:50

場 所：ミーティングスペースAP浜松町Oルーム

出席者：仲嶋 一範（理事長）、池上 浩司、大和田 祐二、堀 修、宮田 卓樹（以上、常務理事）、岡部 正隆、竹林 浩秀、日置 寛之（以上、常任幹事）、伊藤 杏佳、中村 聡（以上、口腔保健協会）

I. 理事長 挨拶

II. 会議記録の確認

以下の会議記録が確認された。

2026(令和8)年度第1回常務理事会（2026(令和8)年2月14日開催）記録（案）

III. 報告事項

1. 庶務報告

(1) 会員異動報告

資料に基づき、以下の報告があった。

・令和 8年 1月分

入会者:正会員 19名、学生 8名

退会者:正会員 4名、学生 1名

・逝去会員

三木 明德 氏（神戸大・名誉会員／永年会員）令和8年1月2日逝去

六反田篤 氏（長崎大・名誉会員／永年会員）令和8年3月12日逝去

・解剖学教育専任教授新規就任者

西村 渉氏（自治医大・解剖学・教授）令和6年4月1日就任

(2) 学会宛文書類について

資料に基づき、以下の通り報告があった。

・日本医学会より「第167回日本医学会シンポジウム・第38回日本医学会公開フォーラムのOnlineライブラリー掲載のお知らせ」他25件

・書籍・定期通信 他:厚生労働省より「医薬品・医療機器等安全情報 No.426」寄贈 他2件

(3) 第131回全国学術集会期間中におけるスケジュール確認

資料に基づき、3月24日から開催される学術集会日程と各種委員会開催日程が確認された。

(4) その他

特になし。

2. 編集報告

(1) その他

特になし。

3. 企画・渉外報告

(1) 二級認定技術者審査結果について

資料に基づき、二級解剖・細胞組織技術者4名の資格審査合格の判定結果が報告された。

(2) 日本医学会・日本医学会連合報告

資料に基づき、第93回日本医学会定例評議員会（2/25・大和田 祐二 常務理事ご出席）、第14日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会（3/5・大島 勇人 氏ご出席）、日本医学会連合 2025年度加

盟学会連絡協議会に関する報告があった。

(3) 生物科学学会連合報告

資料に基づき、第32回定例会議（12/23・大和田 祐二 常務理事ご出席）について報告された。科研費の増額要望が認められたことについて報告された。

(4) 日本脳科学関連学会連合報告

資料に基づき、第34回評議委員会（2026年3月14日仲嶋 一範 理事長、堀 修 常務理事ご出席）についての報告があった。動物愛護管理法に対する対応、ロードマップ2026申請計画などについて報告された。

(5) 国際渉外関係について（KAA、APICA、IFAA）

資料に基づき、KAAとの交流、APICA2025での活動とAPICA2027の開催準備状況、IFAA2026のオーストラリア開催について報告された。

(6) 日本外科学会CST推進委員会報告

資料に基づき、第126回日本外科学会定期学術集会にて日本外科学会CST推進委員会主催予定の教育講演（2026年4月26日に開催予定）について、大和田常務理事が発表予定であることが報告された。

(7) 認定技術者資格審査委員会委員の欠員補充について

資料に基づき、3月末に委員1名が退職するため、委員長より歯学分野の後任を1名推薦いただき、理事長承認をもって委員補充をすることが報告された。

(8) その他

特になし。

4. 会計報告

(1) 2026(令和8)年度中間決算書について

資料に基づき、2026（令和8）年度中間決算書（1月1日～1月31日）の報告があった。

(2) 次期賞・研究費候補者選考委員会の構成

前回の常務理事会において、小池 正人 氏（順天堂大学）、伊藤 哲史 氏（富山大学）、倉岡 晃夫 氏（佐賀大学）、植木 孝俊 氏（名古屋市立大学）、石津 綾子 氏（東京女子医科大学）、榎本 秀樹 氏（神戸大学）が2期目の選考委員を務めること、ならびに次年度の委員長として小池氏が選任されることが承認されている。これを受け、小池氏より新たに岩崎 広英 氏（群馬大学）、大崎 雄樹 氏（札幌医科大学）、八月朔日 泰和 氏（山形大学）、嶋 雄一 氏（久留米大学）、大峽 淳 氏（新潟大学）、長瀬 美樹 氏（杏林大学）の6名が選考委員候補者として推薦され、その選任について確認された。

(3) その他

教育委員会が実施したアンケート結果について報告があり、ご遺体の適切な管理に関して、将来的な人材不足への不安が多く寄せられていることが共有された。学会としての支援が期待される一方で、各大学における運営方法が異なるため、一律の対応は困難であるとの認識が示された。今後は、日本解剖学会として篤志解剖全国連合会と連携し、シンポジウムの企画等を通じて議論を深めていく方針が確認された。

5. 理事長報告

(1) CST事業の法人設立準備委員会報告

資料に基づき、法人の体制について説明がなされた。監事は6団体から推薦された者各1名で構成され、日本解剖学

会はそのうちの1団体として参加することが確認された。また、ご遺体の取り扱いに関わる案件を理事会で決議する場合には、事前に日本解剖学会および篤志解剖全国連合会と十分に調整した上で進める旨、定款に記載されることが確認された。なお、入会費および年会費などについては、引き続き協議中であることが報告された。

(2) その他

特になし。

IV. 審議事項

1. 新入会員の承認について

資料に基づき、令和8年1月1日から1月13日までに入会申請のあった一般会員19名、学生会員8名について審議の結果、全員の新規入会が承認された。

2. 休会申請について

資料に基づき、その他会員としても活動が行えないための休会申請1件が承認された。

3. 教授就任による代議員について

資料に基づき、以下の1名の教授就任に伴う代議員申請が審議の結果、了承された。

西村 渉 氏（自治医科大学 医学部 解剖学講座解剖学部門、2024年4月1日就任）

4. 2025(令和7)年度決算および業務監査報告の件

資料に基づき説明がなされ、本件については理事会において審議を行うことが了承された。また、監事（秋田 恵一 氏、尾崎 紀之 氏）および独立監査人（公認会計士）による監査報告書の内容が報告された。さらに、監事より、学会の保有資産の会員への還元を図ること、国際交流の活発化の一環として2027年APICA第12回大会の準備について物価上昇や円安の状況を踏まえつつ推進すること、献体によるご遺体解剖およびご遺体を扱う倫理的問題への対応について必要な措置を着実に講じること、ならびに公益法人会計基準の変更への適切な対応を行うことの4点について提言があったことが報告された。

5. 2026(令和8)年度予算および事業計画の件

資料に基づいて説明があり、理事会での審議を行うことが了承された。

6. 2026(令和8)年度定時社員総会資料と議長の確認

資料に基づき、議長選出からの総会の流れおよび内容について説明があり、理事会での審議を行うことが了承された。

7. 会員名簿ワーキンググループについて

本ワーキンググループの活動目的は、会員名簿の活用方法について幅広い意見を収集し、利用価値の高い名簿作成に向けた検討を行うことである。メンバーは、堀 修 常務理事（金沢大学）、榎原 智美 氏（明治国際医療大学）、田中 貴士 氏（神戸大学）、若山 勇紀 氏（浜松医科大学）とし、これに加えて若手研究者1名程度を加える予定であることが報告され、理事会での審議を行うことが了承された。

8. 申請による代議員申請書について

前回の常務理事会において、代議員申請書様式（案）が提案され、新たに「4. 解剖学に関連した教育歴」および「6. 特記事項（任意）」の項目を任意項目として追加すること、ならびに申請書の余白に「代議員選出規程申し合わせ」より規程の一部を抜粋して記載する案が承認されている。本件について、今回改めて確認の上、理事会において審議を行うことが了承された。

9. 奨励賞募集概要について

日本解剖学会奨励賞の募集要項について改訂案が示され、理事会において審議を行うことが了承された。

10. ホームページリニューアルワーキンググループについて

本ワーキンググループの目的については、前回理事会において、アウトリーチ委員会のようにHPリニューアルに係る具体的な作業や手続きを担うのではなく、分かりやすいホームページの作成に向けた意見を会員から幅広く収集し、リニューアルに反映することにあると確認されている。これを踏まえ、委員候補者として、宮田 卓樹 常務理事（名古屋大学）、山岸 寛 氏（浜松医科大学）、池上 浩司 常務理事（広島大学）、江角 重行 氏（岐阜大学）、室生 暁 氏（東京科学大学）が提案され、本件について理事会において審議を行うことが了承された。

11. 「ご遺体受け入れ時のご遺族の承諾等」に関するマニュアル案

各大学においては、それぞれ独自の基準に基づき業務が円滑に実施されている現状を踏まえ、このようなマニュアルを提示することの是非について検討が必要であるとの意見が示された。特に、一律的なマニュアルの提示は、かえって現場に混乱を招く可能性がある点についても指摘された。このため、詳細なマニュアルを策定するのではなく、献体受入れ側の視点に立った骨子となる考え方を示すことで、各大学がそれぞれの事情に応じて弾力的に運用できる指針を整備することが望ましいとの認識が共有された。

12. 学術委員会の名称の変更について

委員会の担当業務が分かりにくいこと、また活動内容に他学会との連携業務が多く含まれていることを踏まえ、委員会名称の変更について提案がなされた。具体的には、「学術委員会」を「学術・他学会連携委員会」へ変更する案が示され、本件について理事会において審議を行うことが了承された。

13. 献体遺体を用いた分子レベルの研究について

前回常務理事会において、献体遺体を用いた分子レベルの研究に関するワーキンググループの設置が承認され、その目的として、献体遺体を分子レベルの研究に使用することの可否および使用条件等について多角的に検討し、基本的な考え方を整理することが確認されている。また、将来的にはガイドライン策定も視野に入れることとされている。構成員は、堀 修 常務理事（座長・金沢大学）、渡辺 雅彦 氏（北海道大学）、寺田 純雄 氏（東京科学大学）、尾崎 紀之 氏（金沢大学）、大和田 祐二 常務理事（東北大学）、竹林 浩秀 常任幹事（京都大学）とすることが承認されている。本件について、今回改めて内容を再確認の上、理事会において審議を行うことが了承された。

14. 海外在住会員の会費について

海外在住の正会員については、これまで英文誌の送料として年会費に加えて別途1,000円を徴収していたが、英文誌の電子化に伴い送料が不要となったことから、当該追加徴収に関する項目を削除する改訂案が示された。本件について、理事会において審議を行うことが了承された。

15. その他

特になし。